

「関節リウマチでも、下を向かなくていいんです」

平成 26 年 3 月放送

川原 英夫

「先生、こんなに良くなって歩けるようになりました。」

関節リウマチ治療に携わらせて頂くようになり、最も嬉しいのは、患者さんが笑顔で経過を報告して下さる瞬間です。

20 年前は、関節リウマチにはまだまだいいお薬がなく、ステロイドをたくさん使っている患者様も多く、現在では内服薬の主流になっているリウマトレックスが、ようやく認められ始めた頃です。この頃は「慢性関節リウマチ」と呼ばれ、年月とともに関節変形が容赦なく悪化し、半ば死の宣告でも受けたかのように、患者様もうつむき加減でした。そうした患者様を目の前にして、僕達医師自身も無力ささえ感じ、少しでも痛みから解放されるように、変形の進んだ関節を手術することが精一杯でした。

関節リウマチの夜明けは、2003 年 7 月、生物学的製剤として初めて、「レミケード」の使用が認められた時でした。とても画期的で、「レミケード」を点滴すると今までの痛みが嘘のように軽くなり、車椅子だった患者様も、次の診察の時は歩いて来院され、目を見張る効果に驚きました。僕達関節リウマチの診療に関わる医師も、患者様も、初めて日の光が差し、やっと長い暗いトンネルを抜けたような思いが致しました。

それから 10 年の年月が経ち、今では生物学的製剤は 7 剤に増え、点滴、皮下注射と患者様のニーズに合わせて選択可能になり、最近では「ゼルヤンツ」という内服薬まで使用可能になり、さらに身近な治療になりつつあります。

「大丈夫ですよ。関節リウマチは、昔は僕達医師も喧嘩できませんでしたが、

もう泣き寝入りしなくていいんですよ。」

現在生物学的製剤の投与により、関節破壊の進行を止めることができるだけでなく、早期であれば、軽微な関節破壊であれば、修復さえ期待できることが分かってきております。



皆さん、ご存知でしょうか。有名な画家「ルノワール」も、晩年は関節リウマチに苦しみ、手の変形もひどくなり、満足に絵筆も持てなくなっておりましたが、非常に優しいタッチの暖かい絵を残しておられます。そして彼はこうっておられます。

「世の中にはたくさんの不愉快なことがあるけれど、私には芸術という素晴らしい世界がある」

「関節リウマチになっても、決して希望を失う必要はない。下を向かず、もっと前を向いて。」こうした力強いメッセージを感じます。

患者様も不安だとは思いますが、我々関節リウマチ専門医は、豊富な経験と最新の知識をもとに、必ずや寛解へと導いていきます。遠くの病院まで治療に行かれる患者様もいらっしゃいますが、敦賀にも我々リウマチ専門医が、最先端の治療を行っていることをご理解頂き、どうか勇気を持って我々の外来の門をたたいて頂きたいと思っております。